

教員活動状況報告書

提出日： 令和 5 年 3 月 2 日
 所 属： 獣医 学部 獣医 学科
 氏 名： 高木 哲 職位： 教授
 役 職： 動物病院副病院長

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

（教育活動について何をやっているのか：役職担当・主要担当科目リスト（必修，選択）（受講者数）（学部向け，大学院向け）（學理データ活用）

教師として何に責任を負っているかを明確にし，自分が担当している授業科目に関して数行で説明する。 （分量の目安：2～5行（80字～200字）（科目表以外）

※分量（字数）はあくまで目安ですので，超えても構いません。内容を優先して下さい。（以下同じ）

臨床現場において知っておくべき重要かつ基本的な事項に加えてについて，教科書レベルではなくプラスαの知識として「なぜそうなっているのか，なぜこのように治療するのか」に重点をおいて自ら考える力を育成することに重きを置いている。

科目名	学科・専攻	必，選，自	配当年次	受講者数
獣医外科学	獣医	必須	4	150
獣医外科学実習	獣医	必須	5	150
獣医総合臨床	獣医	必須	5	150
小動物臨床実習	獣医	必須	5	150
小動物病院実習	獣医	選択	6	10

2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

1. で説明した教育面での責任を基にしながら自分の教育理念に基づいて自分の教育アプローチについてまとめる。（自分の教育アプローチの説明：なぜやっているのか，自らの信念，価値，目指すもの） （分量の目安：8～12行（320字～480字））

・獣医学部を卒業しても自信をもって活動できないことがないように自己肯定感を確立させるため，物事の本質を多方面から捉えることができるようにし，将来揺らぎない自己を育てる。

・海外の専門医と日本のトップレベルに技術的には差はないが獣医業界全体の平均点としては劣っていると感じており，教育手法が確立されていると感じたことから基礎から応用までがエビデンスをもって実行できる獣医師を育てる。

・卒業生は必ずしも獣医師としてのみでなく活躍しているので自己完結能力をもって将来

どの分野にも対応できる可能性を持った人物を育てる。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

教育の目的と目標（これまでの教育経験においていつも行っていること。重要視していること。自分の教育を特徴づける方法）（分量の目安：15～24行（600字～960字））

[方針1] 自然科学は正答を選ぶ学問ではない。同様に、臨床例の診断治療においてもそれぞれの「答え」を覚えるのではなく、「解き方」を学ぶ。

[方法] 症例の手術・診療においてなぜそうなっているかを常に説明する。
低学年の授業においては匿名で質問できる環境を整える。
高学年・卒後教育においては自分より下の立場への説明ができるようにする。

[方針2] ひとつの課題からひとつではなくより多くのことを学ぶ。

[方法] 診療の前後に症例検討会を行う。
学生の卒論ミーティングは2週間ごとに必ず全員で行う。

[方針3] 確実な基礎知識を育成する。

[方法] 授業後の小テストを実施する。
スマートフォンでも確認できる基礎手技の映像教材を制作する。
試験内容の正答は本質に関わることを選択できるようにする。

[方針4] 自らの力で解決策を見つける能力を得る。

[方法] 学生の論文ゼミの運営補助はするが当日の進行自体は学生が主導する。
研修獣医師はインフォームシートの作成を共同で行う。

[方針5] 常に最近の知識を得ることが重要であることを理解する。

[方法] 授業教材は毎年手直しする。
実習内容も毎年手直しする。

アクティブラーニングについての取組

授業の中でアンケートシステム（イマキク）を利用してクイズや学生からのコメントを拾っている。配布資料はキーワードを隠して授業中書き込む形式としている。

ICTの教育への活用

ストーリーリング映像教材開発、VR教材開発、iPadを用いたプレゼン

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）（分量の目安：15～24行（600字～960字））

現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

（①から⑤まで個別に記載又は①から⑤までまとめて記載ください）

①教育（授業，実習）の創意工夫（A～C） A

②学生の理解度の把握（A～C） A

③学生の自学自習を促すための工夫 (A~C) A

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等) (A~C) A

⑤双方向授業への工夫 (A~C) A

※A (十分実施している) B (実施しているが十分でない) C (うまく取り組めていない)

いずれの授業もオムニバスである。授業ではiPadを利用してスライドの中でも重要項目がわかりやすいように、スライドの拡大を行ったり、説明をスライド内に書き込んでいる。また、配布資料にはキーワードを穴埋めするようにして授業を聞くようにしている。授業後は毎回小テストを実施している。授業中に匿名のアンケートシステムを用いて双方向性を担保している。授業アンケートの質問内容も答えが一つであるものもあるが、それぞれの意見が反映されるようにしたり、引っかけ質問(試験ではできないので、あくまでレクリエーションの範囲)などを実施することで授業中に楽しいと思えるものを提供するように心がけている。この時点で理解度の把握もある程度可能である。実習においてはストリーミング動画教材を用いていつでもどこでも臨床手技映像が学習できるように工夫している。また、特に全体の流れの理解が重要である実習内容についてはバーチャルリアリティー教材を作成して個々人がベストな位置でデモンストレーションを疑似体験できるようにしている。非生体教材を積極的に利用して繰り返し学生が勉強できるように機会を与えている。また、実習班は細かく分けることで十分な実習ができるように工夫されている。実習のある週は1000回以上の再生実績が見られることから実際に複数回利用されていることがわかる。実習では到達度試験も実施している。通常の保護猫避妊去勢実習に加えてイレギュラーで同様の実習をマンツーマンで指導している。

⑥国家試験対策としてどのような取組をされましたか。(V学科, M学科の教員の方のみ記載してください。)

獣医事審議会委員(試験部会長代理)のため、退任後も獣医師国家試験にかかわる試験対策等には一切関与できない。本学教員を問題作成者として推薦することで間接的に貢献する。

5.学生授業評価(分量の目安: 4~7行(160字~280字))

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

そもそも本学で実施している授業評価はオムニバスの場合はほとんど参考にならない。このような場合には個別にアンケートを取るようにとのコメントもあるが、時間内に実施すると授業時間が減ったり、学生の負担を考えると実施できない。いつも最低限自分に関わることを参考にしている。

② ①の結果はどうでしたか。

回答数も少ないためほとんど参考にならない。高学年時になるとアンケートに協力的で

なく、休憩時間中に回答するよう促したがほとんど回答は得られなかった。授業を中止ししてアンケート回答しない限り授業を開始しないなどの工夫することを検討するとともに、教務課には試験後にアンケート回答できるよう設定することを求める（以下参照）。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組めますか。

アンケートを参考にした構成を考えていく。ただし、本学のアンケートは試験の実施前にとっており、試験後には回答できない設定となっている。このタイミングだと評価が不十分となるためやはりあまり参考にならないのではないかと思われる。なお、外科実習では独自のアンケートを紙媒体で実施・回収しているのでそちらを参考としている。

6. 学生の学修成果（分量の目安：4～7行（160字～280字））

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

（参考となる取組については、学内で共有させていただく予定です。）

授業終了後に毎回小テストを実施する。これまでに記載した通り、内容をただ暗記するだけでなく、なぜそうなっているのかを知ることが必要であることを試験対策としての意図ではなく、科学者としての見た目の重要性として授業中に繰り返し説明している。

② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

アンケートコメント、論文、学会講演依頼、授業参観の講評

7. 指導力向上のための取組（FD研究会参加状況）（分量の目安：1～2行（40字～80字））

臨床活動もあるため参加が難しい状況も多いが、できる限りタイミングを合わせて参加し、それ以外のタイミングでもオンデマンド視聴などで参加している。しかし、回数が多すぎるので機会は減らしてもう少し本当に必要なことに集中した方が身になるのではないかと思っている。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

教育活動に関する今後の目標を記載してください。短期的な目標と長期的な目標を分けて記載してもかまいません。（分量の目安：3～6行（120字～240字））

短期的には対面授業での双方向性を確立することが目標で、これはほぼ達成できたのでこの状況を維持していく。

長期的には学生が自主的に課題を見つけ、自力で解決する考える力をつけることができるようにする。このことは実際の国家試験合格率に反映されていくものと思われる。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

※資料については非公開扱いのものもありますので、資料名のみを記載してください。シラバス、小テスト、試験問題、教材（配布資料、パワーポイント資料など）、論文、科研

費補助金の獲得、Dx 補助金事業プレスリリース、教育改善プログラム報告